

令和5年8月28日

中学校 技術・家庭科

第23回 全国中学生創造ものづくり教育フェア

実施要項

本要項、ルール等はWebページより閲覧できます

<https://www.ajgika.ne.jp>

主催 全日本中学校技術・家庭科研究会

共催 文部科学省

(予定) 公益社団法人全国中学校産業教育教材振興協会
日本産業技術教育学会
日本家庭科教育学会 他

後援 厚生労働省 林野庁 特許庁 東京都 他
(予定)

開催の概要

- 1 開催期間 令和6年1月20日（土）～21日（日）
- 2 時間
 - ◆1月19日（金） 会場準備
 - ◆1月20日（土） 第1日目 午前9時から午後5時
(競技ごとに、開会式、競技会、閉会式)
 - ◆1月21日（日） 第2日目 午前9時から午後5時00分
(おべんとう部門、開会式、競技会、閉会式)
(WEBにて結果発表)
(表彰状は郵送) ※副賞はありません
- 3 会場 中央区立総合スポーツセンター（20日・21日） 他
東京都中央区日本橋浜町2-59-1 TEL：03-3666-1501
※なお、競技部門によってはオンライン活用や別会場での開催があります。
- 4 参加対象 全国の中学生、技術・家庭科担当教諭、ものづくり教育に係る関係者
- 5 プログラム
 - (1)生徒作品コンクール
 - (2)木工チャレンジコンテスト
 - (3)「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール
 - (4)「あなたのためのおべんとう」コンクール
 - (5)創造アイデアロボットコンテスト
 - (6)プログラミングコンテスト
- 6 ご来賓
 - 文部科学省 教科調査官 渡邊 茂一 先生
 - 文部科学省 教科調査官 熊谷 有紀子 先生
- 7 閉会式 なし
 - (1) 表彰（予定）
 - ① 文部科学大臣賞 ② 厚生労働大臣賞 ③ 林野庁長官賞 ④ 特許庁長官賞
 - ⑤ (公財) つくば科学万博記念財団理事長賞 ⑥ (一財) 田部謝恩財団特別賞
 - ⑦ 全日本中学校技術・家庭科研究会会長賞 ⑧ 日本産業技術教育学会会長賞
 - ⑨ 日本家庭科教育学会会長賞 ⑩ 女子栄養大学学長賞
 - ⑪ (公社) 全国中学校産業教育教材振興協会会長賞 ⑫ (一社) 日本家政学会被服構成学部会
 - ⑬ 全国家庭科教育協会会長賞 ⑭ (公社) 全国工業高等学校長協会理事長賞
 - ⑮ 全国市町村教育委員会連合会会長賞 ⑯ 日本教育新聞社新聞社賞
 - ⑰ 全国農業高等学校長協会協会賞 ⑱ 日本木材青壮年団体連合会会長賞
 - ⑲ 東京都公立中学校PTA協議会会長賞

8 プログラムに関する実施概要

- (1) 生徒作品コンクール（運営担当：群馬県・新潟県・全産協・学会）
 - ア 全国各都道府県で作品を募集し、技術分野・家庭分野、授業内製作作品（Ⅰ部門）・自主製作部門（Ⅱ部門）を合わせて、各都道府県市計6作品までとする。
 - イ（公社）全国中学校産業教育教材振興協会と共催で作品を募集する。
- (2) 木工チャレンジコンテスト（運営担当：茨城県・栃木県・全産協・学会）
 - ア 木材加工の技術やデザイン、創造性を競う。
- (3) 「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール（運営担当：山梨県・長野県・学会）
 - ア 布による製作品の加工技術やデザイン、創造性を競う。
- (4) 「あなたのためのおべんとう」コンクール（運営担当：神奈川県・埼玉県・千葉県・東京都・学会）
 - ア 食べてもらう相手のことを考えたお弁当作りを通して、身近な人とのかかわりの大切さや「食」の重要性を知る。
- (5) 創造アイデアロボットコンテスト（運営担当：埼玉県・東京都・学会）
 - ア 全国統一規格のロボットコンテストを各都道府県で実施する。
 - イ 全国大会は対面方式で行い、技術や創造性を競う。
- (6) プログラミングコンテスト（運営担当：神奈川県・毎日パソコン事務局）
 - ア プログラミング（チャットボット）の制作を通して、その創造力・論理的な思考力を競います。
- (7) その他
「体験セミナー」や「ものづくり学習に関する教材・器具等の紹介」は、都合により開催しません。
(運営担当：千葉県)

9 大会参加費について

- ・大会参加費については、各部門が指定した口座にお振り込みください。また、各部門の振込口座は、各部門の実施要項にてご確認ください。
※振込手数料は、大会参加者のご負担になります。

- 10 生成AIに関しては、文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン（令和5年7月18日）」に基づいて『中学生創造ものづくり教育フェア』を行います。ご指導される先生方や参加される生徒の皆さんは、参加や作品の応募・提出前に必ずご確認ください。
※全文をお読みいただいたうえで、特に、5ページの【(2) 生成AI活用の適否に関する暫定的な考え方】や、6ページの【長期休業中の課題等について（文章作成に関わるもの）】をよくお読みください。
(8/28 追記)